# 取扱説明書

## 自走式草刈機　ハンマーナイフモアー

## HRG661

0252-70000

●取扱説明書本文中にでてくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
●本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
●取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

株式会社　オーレック

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

# 目　　次

項　目　　頁

## 《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。
ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。
又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。
尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

## 《本製品の規制について》

本製品は、歩行型のゴボウ葉切機として開発しておりますので、これ以外の用途には使用しないで下さい。

## 《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後１ケ年間、又は５０使用時間(業務用については６ケ月間、もしくは５０使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、**『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名』**を併せてご連絡下さい。

「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によっての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

## 《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

| シンボルマーク | 定　　　　義 |
|---|---|
| ⚠危　険 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
| ▲警　告 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
| ▲注　意 | その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。 |
| 参　考； | 操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。 |

## 《安全に作業をするために》…重要危険項目…

### （１）警告表示マーク

・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用の前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。

●…危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにしておいて下さい。 〈31 頁…消耗品明細　参照〉

●…本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。

## （２） 作業前の注意

※搭載エンジンで貼付位置が多少異なります

- 本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- 所有者以外の人は使用しないで下さい。
- 過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業をさせないで下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者にも作業をさせないで下さい。
- 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡等を必ず使用して下さい。
- 作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等がいないことを確認し、作業中は半径１０m以内にこれらのものを近付けないで下さい。

⚠ **安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。**

⚠ **前回の作業終了後に確認された要修理箇所等について、確実に修理が行われている事を作業開始前に必ず確認し、修理が完了するまでは絶対に作業を開始しないで下さい。**

- 必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときは、しっかり締めて下さい。

⚠ **ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかり締めて下さい。又、古いものは新しいものに取換えて下さい。**

⚠ **ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用して下さい。**

⚠ 小石やその他の異物は取り除き、障害物は事前に目印となる物をつけた後で作業を開始して下さい。又、このような圃場では、安全のために通常よりも高刈りで作業を行って下さい。ナイフが欠けたり石等の異物が飛散し危険です。

⚠ **排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。**

・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。

・ナイフクラッチと走行クラッチが「切」の時、Ｖベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には､速やかにエンジンを停止しベルト押え､ワイヤを調整して下さい。

・１０°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が１５°をこえると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

⚠ **斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。**

・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。

⚠ **暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。**

・ **安全作業の障害となるような本機の改造(夜間作業用のライトの装着、ナイフカバーの一部切断等)は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。**

## （３） 燃料給油時の注意

・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

⚠ **火傷や火災の危険がありますので給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。**

## （４） 始動時の注意

・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。

・走行クラッチ、ナイフクラッチを「切」位置にし、変速レバーを「**中立**」位置にして、ブレーキがあるものはブレーキを掛けてから始動して下さい。

・回りに人や動物や車両等がいない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

## （５） 積み降ろし時の注意

〈15 頁…参照〉

・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、車止めをして下さい。

・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、変速レバーは積み込みは前進｢①｣位置で､降ろすときには後進｢Ｒ1｣位置でどちらもゆっくり行いその他の位置には絶対入れないでください｡

### （６） 作業中の注意

・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

⚠ **排気マフラ高温となります。本機への乗り降り時等にマフラに手をかけると、火傷を負います。**

・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。

・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

⚠ **刈取部より石などの異物が飛散し危険です。人や車、建物などからはなれて十分ご注意の上作業して下さい。**

⚠ **回転部分は危険です。とくにナイフカバー内は危険ですので、身体を近付けないで下さい。**

⚠ **冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行って下さい。**

⚠ **石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に作業を始め、安全のため、通常よりも高刈りで作業をして下さい。ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。**

・作業中、石・木株等に当たったときは、直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停止した事を確認後、欠けや曲がりの有無を調べて下さい。

### （７） 作業終了後の注意

・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。

・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

### （８） 点検・整備時の注意

・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

⚠ **ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。**

・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。

・ナイフセットボルトは安全のため、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

⚠ **ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。３年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。**

・走行クラッチ・ナイフクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行って下さい。

・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。

・ナイフブレーキ、走行（駐車）ブレーキのあるものについては安全のため、使用時間が１００時間に到達しない時点で交換して下さい。

## 《機械を他人に貸すときは…》

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

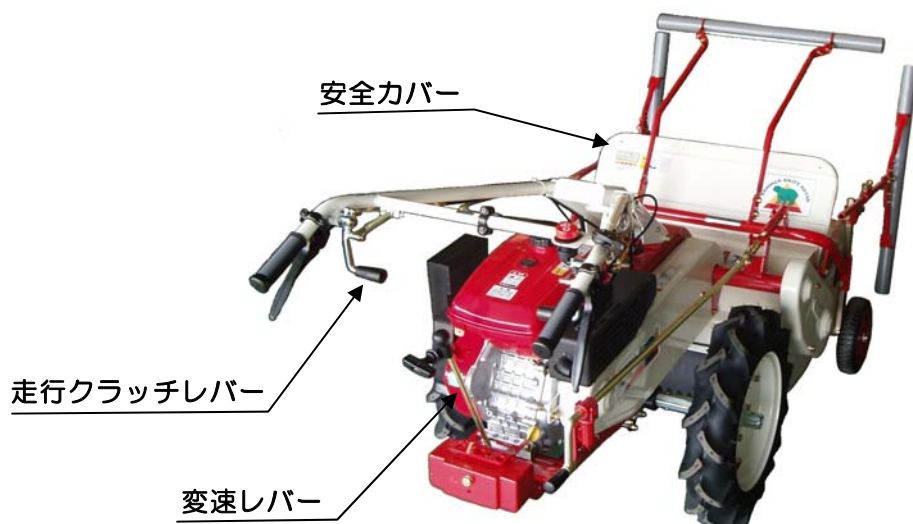
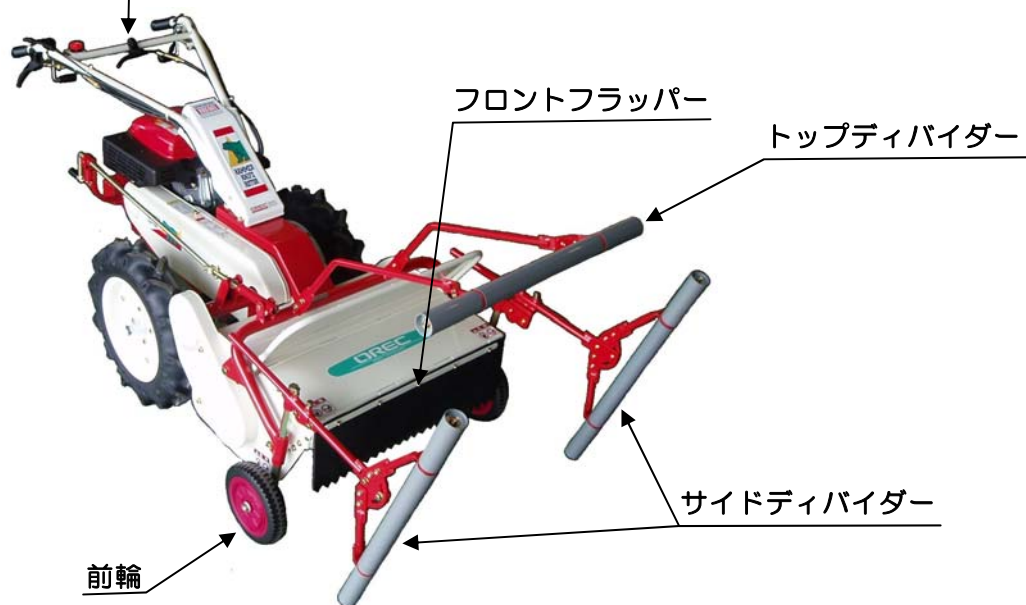
親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

## 《方向について…》

本機の前後左右は、下図のようにシートに座った作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者からみた方向で表します。

《各部の名称》

エンジンスイッチ
ナイフクラッチレバー
刈高調整レバー
ハンドル上下レバー
フロントフラッパー
トップディバイダー
サイドディバイダー
前輪
安全カバー
走行クラッチレバー
変速レバー

## 《各部のはたらき》

①走行クラッチレバー

走行を「入」、「切」します。引き上げると「入」、押し下げると「切」となります。
走行クラッチレバーには、駐車ブレーキが連動しており、レバーを「切」位置にすると同時に駐車ブレーキが掛かります。

②ナイフクラッチレバー

ナイフの回転を「入」、「切」します。走行クラッチレバー同様に、引き上げると「入」、押し下げると「切」となります。
ナイフクラッチレバーには、ナイフブレーキが連動しています。レバーを「切」位置にすると同時にナイフブレーキが掛かり、ナイフの回転は 3 秒程度で停止します。

### ⚠ 警告

走行クラッチの位置に関わらず、エンジン回転中はナイフクラッチレバーを「入」位置にするとナイフは高速回転します。レバー操作には十分注意して下さい。

③変速レバー

走行速度の選択を行います。前進は 3 段、後進が 1 段、中立「N」が３ヶ所となります。
各レバーの位置と速度は下表によります。

| | **後進 1** | **1 速** | **2 速** | **3 速** |
|---|---|---|---|---|
| 走行速度 | 0.79 Km/h | 0.79 Km/h | 1.65 Km/h | 2.92 Km/h |

### ⚠ 注意

変速操作は、必ず走行クラッチレバーを「切」位置にし、本機を停止させてから行って下さい。

④刈高調整レバー

刈高さの調整を行います。
右に回すと刈高は低くなり、左に回すと高くなります。
圃上にうねりがある場合は、凸の方に刈高さを合わせ、ナイフへの泥や石の噛み込みがないように調整して下さい。

### ⚠ 注意

刈高を低くしすぎると下記のような弊害が発生する恐れがあります。下記のよう症状が見られる場合は、刈高が低すぎますので高くして下さい。

(1) 石等の異物の飛散が多くなる。
(2) 泥を削り、飛散した泥がナイフカバー内に付着し、刈草の吐き出しが悪くなり、

無駄な馬力ロスが発生する。

(3) ナイフの摩耗が極端に速くなる。ナイフがすぐに折れる。

⑤トップディバイダー

上に伸びたゴボウの葉・茎をスムーズに刈取部へ誘導します。

⑥サイドディバイダー

左右に広がったゴボウの葉・茎をスムーズに刈取部へ誘導します。

## ▲警告

移動時に誤って地面に接触しないよう、サイドディバイダーは上部に引き上げておいて下さい。

⑦前輪

前輪はスライド・固定式となっています。刈高調整レバーと併せて、刈高さの調整を行う事ができます。

⑧ハンドル上下レバー

作業者の体格、又は作業状況に応じてハンドルの高さを調整します。作業者の腰骨あたりにハンドル位置を調整して下さい。

⑨フロントフラッパー

刈取部からの、石や異物の飛散を防止するためのものです。

## ▲警告

フラッパーを上げたままの作業は、石や異物が飛散し非常に危険です。必ず、フラッパーは下げて作業して下さい。

⑩安全カバー

このカバーは、刈取部からの飛散物よりオペレーターを守るためのものです。必ず、取付けて作業して下さい。

⑪エンジンスイッチ

エンジンの回転を「入(ON)」、「切(OFF)」します。

## 《上手な運転のしかた》

### 運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために **「定期自主点検表」**〈32 頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

⚠ 警告：本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

### エンジン始動・停止のしかた

#### ⚠ 警告

①締め切った室内でエンジンを始動しないで下さい。

… 締め切った室内でエンジンを始動すると …

有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。

②ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。

③エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

④エンジンの暖機運転は、閉めきった部屋では行わないで下さい。

#### ⚠ 注意

- エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

■エンジン始動のしかた

①エンジンオイルを確認して下さい。

◎給油栓がオイルゲージを兼用しています。

オイルゲージの上と下の目盛線の間にオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい

参考；

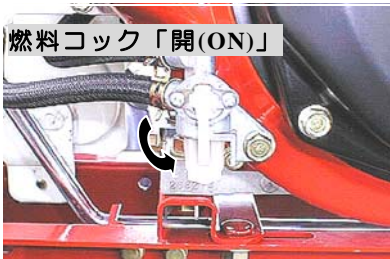
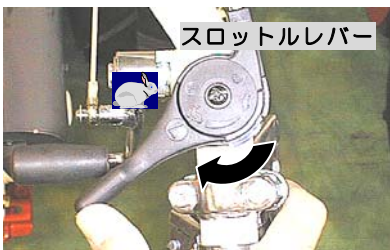
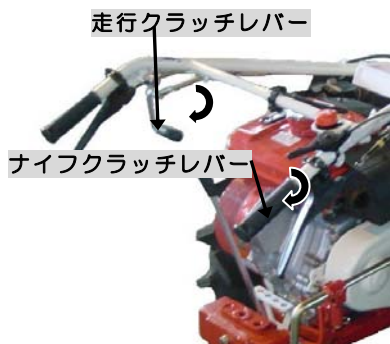
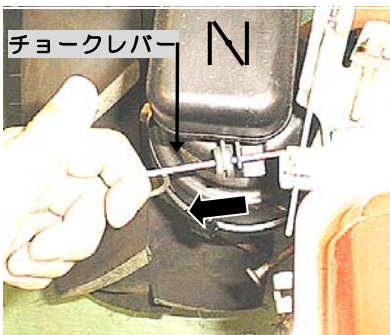
- エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。
- 使用するエンジンオイルは SD 級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

| 季節 | オイル |
|---|---|
| 夏季（10°C 以上） | SAE30,SAE10W-30,又は SAE40 |
| 冬季（10°C 以下） | SAE5W20,又は SAE10W-30 |

## ⚠ 危険

- 燃料を入れる時には必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- エンジンとマフラが冷えた後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。

②燃料を確認して下さい。
燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。
〈燃料タンク容量は 30 頁…仕様参照〉

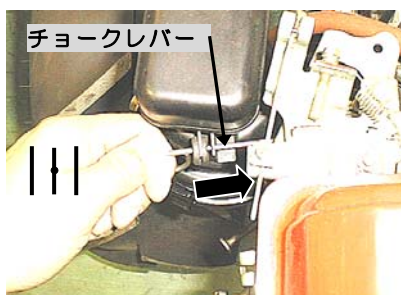
- 燃料計のゲージが「E」に近づいたら早めに燃料を補給して下さい。
- 燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。
- 傾斜地での使用は、給油口内フィルタの規定油面上限以下で使用して下さい。

③燃料コックを「開(ON)」位置にして下さい。

④スロットルレバーを『』にして下さい。

⑤走行クラッチレバー、ナイフクラッチレバーをそれぞれ「切」位置にして下さい。

⑥チョークレバーを「閉」 位置にして下さい。

参考；
エンジンが暖機されている場合には、チョークレバーの操作は必要ありません。

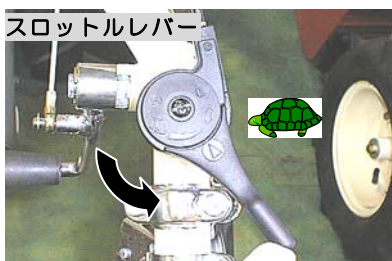
エンジンスイッチ「ON」

⑦エンジンスイッチを「入(ON)」位置にして下さい。

⑧スタータノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から勢いよく引っ張ります。

エンジンの始動後は、直ちにスタータノブは元の位置に戻して下さい。

⑨エンジン始動後は、チョークレバーを戻し、「開」位置にして 5 分程度の暖機運転を行って下さい。

暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命をのばします。

## ■エンジン停止のしかた

⑩スロットルレバーを『　』位置にして下さい。

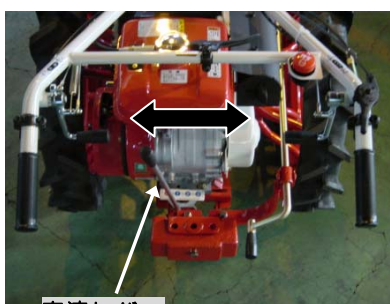
⑪エンジンスイッチを「切(OFF)」位置にしてエンジンを停止して下さい。

⑫燃料コックを「閉(OFF)」位置にして下さい。

## 走行・変速・停止（駐車）のしかた

### ⚠ 警告

- **所有者以外の人には使用させないで下さい。**
- 走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。
- 側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。
- 勾配が 10゜以上の傾斜地での使用は、転倒・暴走の危険があります。このような場所での使用はしないで下さい。

### ■走行のしかた

①エンジンを始動させて下さい。

〈10 頁エンジン始動のしかた参照〉

②主変速レバーを所要の変速位置に確実に入れて下さい。

### ⚠ 注意

変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けの恐れがあり、大変危険です。
ギヤが入りにくい時には、無理に入れずに走行クラッチレバーを「入」方向に少し移動させ再度変速操作を行って下さい。
**前進 3 速は移動用です。高速のため作業には使用しないで下さい。**
安全のため、「**低速**」側でスタートし、徐々に「**高速**」側へ変速して下さい。

③スロットルレバーを「半開」にし、走行クラッチレバーを「入」位置にすると走行します。

### ⚠ 注意

走行時には、刈取部が地面やその他の障害物と接触しないよう刈高調整レバーで調整して下さい。
また、走行時にはナイフクラッチレバーを「入」位置にはしないで下さい。

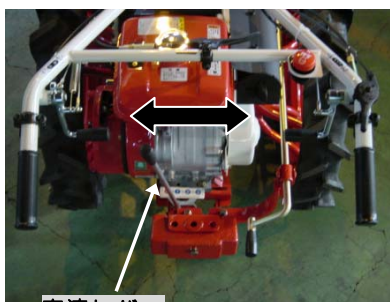
走行クラッチレバー

## ■変速のしかた

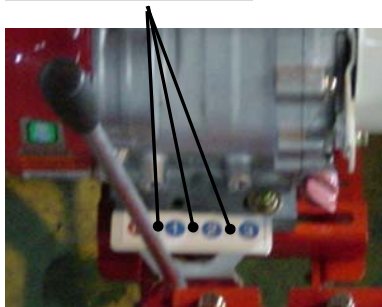
①走行クラッチレバーを「切」位置にして下さい。

### ⚠注意

走行クラッチレバーを「入」位置のまま変速操作をしないで下さい。
危険であるばかりでなく、本機にも悪影響を与えます。

②13 頁走行のしかたを参考に変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に変速して下さい。

③主クラッチレバーを「入」位置にして再発進して下さい。

## ■停止（駐車）のしかた

①走行クラッチレバーを「切」位置にして本機を停止させて下さい。同時に駐車ブレーキが掛かります。

②エンジンを停止して下さい。

〈12 頁エンジン停止のしかた参照〉

③駐車時は変速レバーを中立「N」位置にしておいて下さい。

参考；

●本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車して下さい。

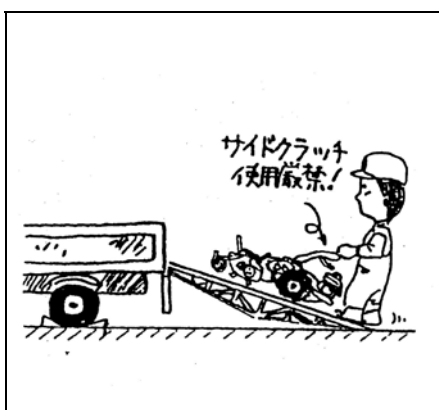
●走行クラッチレバーが「切」位置では、変速レバーの位置に関わらず、駐車ブレーキが利いています。
エンジンを始動させずに本機を移動させる場合には、両サイドクラッチを握ったままで押すと移動できます。

## トラックへの積み降ろしのしかた

### ⚠警告

●運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用して下さい。
●トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
●トラックへの積み降ろしの際には、刈高調整ハンドルで、ナイフがブリッジと接触しない位置まで調整しておいて下さい。
積み降ろしの荷にナイフがブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。

・トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車止め」をして下さい。
・本機の正面は危険です。正面には立たないで下さい。
・ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
・積み降ろし時に、ブリッジ上でレバー類の操作はしないで下さい。転倒の恐れがあります。
・本機の左右のタイヤがそれぞれブリッジの中央に位置するようにして作業を行って下さい。
・本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
・トラックに積んで移動する時には、駐車ブレーキを掛け、十分に強度のあるロープで本機を確実に固定し、更に荷台の上で動かないよう「**車止め**」を掛ければさらに安全です。

■積み降ろしのしかた

①周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。

②基準にあったブリッジを使用して下さい。

③スロットルレバーは「 」、「 」の中間位置にして下さい。

④積み込む場合は前進「①」速、降ろす場合は後進「R」1速位置で行い、その他の位置には入れないで下さい。

参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。
●長さ…トラック荷台の高さの３.５倍以上あるもの。
●　幅　…本機の車輪幅にあったもの。
●強度…本機重量、及び作業者の体重の総和に十分絶え得るもの。
●スリップしないように表面処理が施してあるもの。

《上手な作業のしかた》

## 草刈作業のしかた

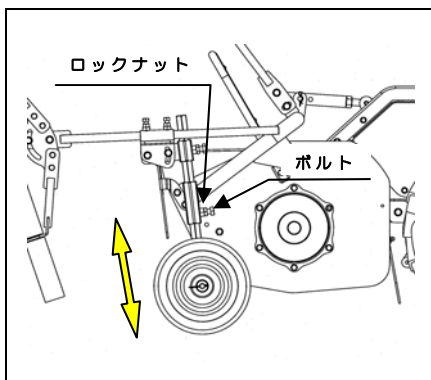
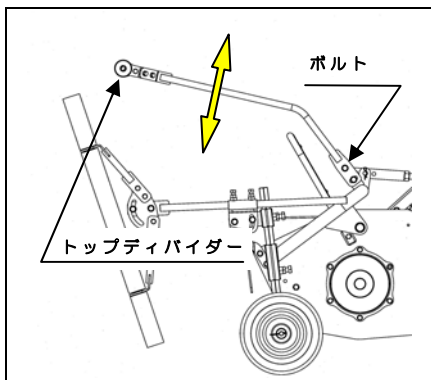
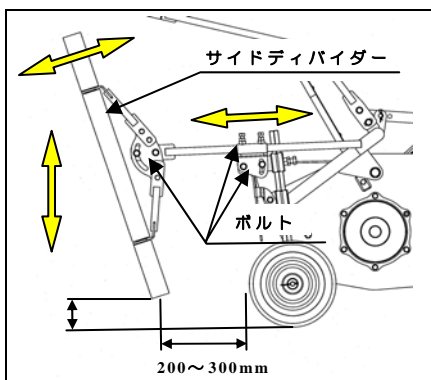
### ⚠ 警告

●安全カバーは必ず取り付けて下さい。針金等が作業者側に飛散する恐れがあります。
●圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩、傾斜(限界傾斜角度１０゜)のあるところ、地面の凸凹等危険な場所には目印を立てて誤って接近しないように注意して下さい。
●ナイフにからみ付いた草や針金その他の異物を取り除く際には、必ずエンジンを停止してから行って下さい。
●作業範囲以内に人(特に子供)が入り込まないよう、草刈り作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、半径１０m以内にこれらのものを近づけないで下さい。

### ⚠注意

・作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、防護メガネを必ず着用して下さい。
・切り株、石、針金、空カン、棒切れ等の異物は作業前に取り除いて下さい。
・石等異物の多い圃場での作業については、これらの飛散による被害を防止するため高刈りをする等、安全に十分注意して下さい。
・本機は、刈取部からの異物の飛散を最小に抑える様設計されていますが、構造上刈取部前方については、異物飛散の可能性があります。このため、人・建物等異物の飛散による事故が想定されるものに向かっての作業は行わないで下さい。

参考:
●初めて本機を使用するときは石等の異物のない平坦地を選び、ゆっくりと刈り跡が少し重複するようにまっすぐ刈って下さい。

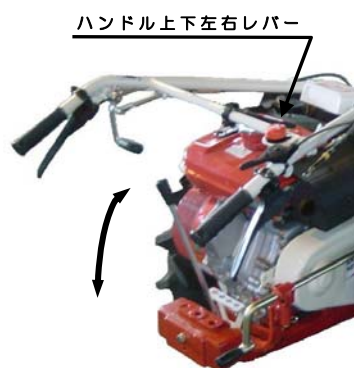
①刈高調整ハンドルで刈高さを調整します。

②刈高調整ハンドルだけで調整できない場合、または前輪左右のバランスが悪く、刈取部が水平にならない場合には前輪アームを固定しているボルトを緩め、前輪をスライドさせ調整をして下さい。調整後はボルト確実に締め付け、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

③トップディバイダーは、固定しているボルトを緩めて高さを調整して下さい。ゴボウの生育状況にあわせて、葉や茎がスムーズに刈取部へ入って行くように調製して下さい。調整後はボルト確実に締め付けて下さい。

④サイドディバイダーは、固定しているボルトを緩めて、行って下さい。ゴボウの生育状況にあわせて、葉や茎がスムーズに刈取部へ入って行くように長さ・高さ・角度を調整して下さい。調整の目安として

・長さは、サイドディバイダーの下端が前輪より 200 300ｍｍ前方に位置するように調整して下さい。

・高さは、サイドディバイダーの下端が地面より 50～100ｍｍ上方に位置するように調整して下さい。

・角度は、60～80°程度に調整して下さい。
調整後はボルト確実に締め付けて下さい。

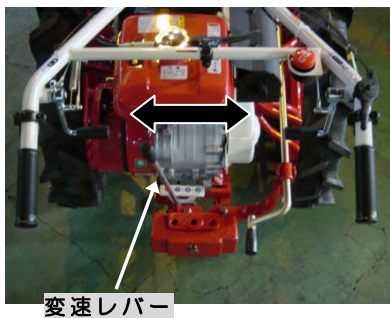
## ⚠ 注意

サイドディバイダーの高さを下げすぎると、地面と接触して破損する事があります。

⑤エンジンを始動させて下さい。

〈10 頁エンジン始動のしかた参照〉

⑥ハンドル上下レバーで作業内容や作業者の体格に合わせてハンドル位置の調整をして下さい。

## ⚠ 警告

ハンドル上下・左右の調整は必ず作業を停止した後行って下さい。作業をしながらの調整は、ハンドルと変速レバーが干渉し、速度と進行方向が急に変わる恐れがあり非常に危険です。

⑦変速レバーを所要の位置に確実に入れて下さい。

参考:
変速レバーが入りにくい時は無理に入れずに、走行クラッチレバーを一旦「入」位置側に少し移動させ、再度入れ直して下さい。

⑧スロットルレバーを高速『 』位置にし、ナイフクラッチレバーを「入」位置までゆっくりと引き上げて下さい。

参考:
ナイフクラッチレバーを「入」位置まで一気に引き上げると、エンストする場合があります。

## ⚠ 警告

**ナイフが高速回転を始めます。注意して下さい。**

⑨走行クラッチレバーを「入」位置へゆっくりと引き上げて下さい。作業を開始します。

⑩作業を停止する場合は、まず走行クラッチレバーを「切」位置にし、本機を停止させます。
同時に駐車ブレーキが掛かります。

⑪次にナイフクラッチレバーを「切」位置にします。
同時にナイフブレーキが掛かり、ナイフの回転は短時間(約3秒)で停止します。

⑫エンジンを停止して下さい。
〈12頁エンジン停止のしかた参照〉

参考:
走行クラッチレバー、ナイフクラッチレバーの「切」操作は、ハンドルから手を離さずに、それぞれの親指を使うと安全に操作ができます。

## ⚠ 警告

- 作業は必ず、前進「①～②」速の範囲で行い、決して後進「R」位置での作業はしないで下さい。刈取り性能が落ちるばかりでなく、が刈取部からの異物の飛散が多くなり、転落、後部障害物との圧搾事故等の危険があります。
- ナイフの回転中ナイフカバー内部は高速で回転するナイフで危険です。絶対に草等をナイフカバー内へ蹴り入れたり、作業進行方向へ立ったりしないで下さい。
- 作業中、刈取部が障害物と接触した場合には、作業を中断しエンジンを停止して損傷を調べ、以上があればすぐに修理して下さい。修理しないで作業を再開すると思わぬ事故につながります。
- エンジン、特にリコイルカバー、エアフィルタ、マフラ付近に草屑や木の葉等を堆積させないで下さい。オーバーヒート、火災の原因となります。
- 安全のため、本機を離れるときには必ずエンジンを停止して下さい。

参考；

- 刈取られた草は、ナイフカバー内で粉々に粉砕され、後部から排出されます。草が濡れたままの状態で作業を行うと、刈草がナイフカバー内に堆積し、排出能力が低下します。結果として短い草でもすぐにエンストしてしまうようになりますので、ナイフカバー内に堆積した草屑はこまめに取り除くか、草が乾くまで待って作業を開始して下さい。
- エンジンに高負荷がかかるようでしたら、速度を一段落とすか、刈高さを上げて 2 回刈りをするかして下さい。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

## ⚠ 注意

● 出荷時本機にオイルは入れてありません。始めて本機をご使用になる前には、必ず指定の箇所に指定のオイルを指定の量だけ入れて下さい。

・定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。

・各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを(約 5 分以上)待ってから作業を行って下さい。

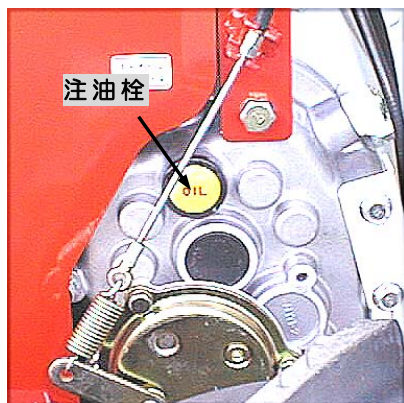
…エンジン停止後、すぐに作業を行うと…

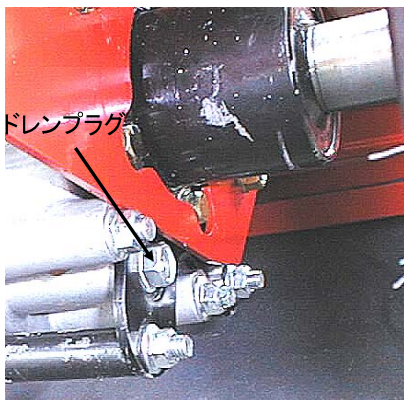
● エンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。

・エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。

・安全のため、作業が終了するまで点火プラグキャップは点火プラグより外しておいて下さい。

■交換後の廃油は適切な処理をして下さい。■

### ミッションオイルの点検・交換・注油

◎点検…

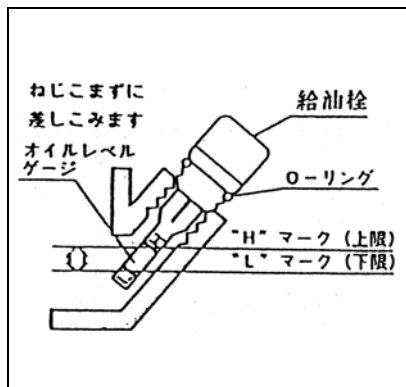
点検は、ミッションケース左側面上部の注油栓を外して確認して下さい。注油口を通してミッションオイルが目視で確認できれば(注油口いっぱいまで)ほぼ規定量のミッションオイルが入っています。

◎交換・注油…

交換は、オイルを受け取る適当な容器を用意し、初回は **20** 時間目、それ以降は 100 時間を目安にミッションケース右側面下部のドレンプラグ(排油栓)を外して行って下さい。

注油は、ドレンプラグ(排油栓)を取り付けた後、注油口よりミッションオイル(＃90)を 1.6 ㍑入れて下さい。

● 注油後は、オイル漏れのないように注油栓をしっかり締め付けて下さい。

● ドレンプラグ排油栓のガスケットが取り付け面に接触してから更に 3/4 回転ねじ込んで下さい。

## エンジンオイルの点検・交換・注油

### ◎点検…

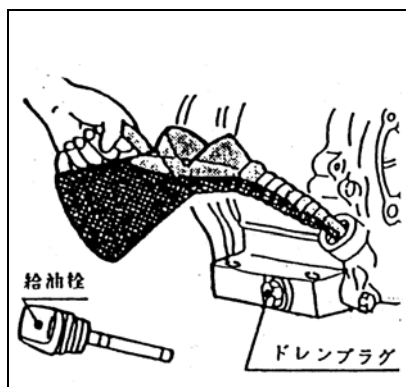
・給油栓についているレベルゲージで、エンジンオイルの質・量を毎日、もしくは 8 時間使用毎に点検して下さい。

・常にレベルゲージの上限までエンジンオイルは入れておいて下さい。

### ◎交換・注油…

参考；

●初回は 5 時間目、それ以降は 50 時間運転毎に交換して下さい。

●**但し､負荷条件の厳しい作業条件や高温環境で連続長時間使用される場合は､上記時間に達する前、早めの交換をおすすめします。**

①オイルを受け取る適当な容器を用意し、オイル給油栓を外した後、エンジン後部のドレンプラグ(排油栓)を工具を使って外して下さい。

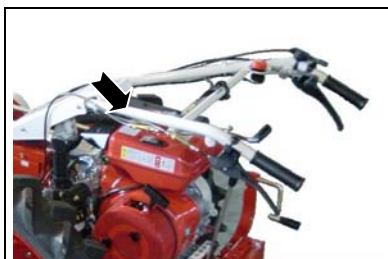
②抜き終わったら元の通りにドレンプラグをしっかりと締め付けて下さい。

③30 頁を参照しながらエンジンオイルを注油して下さい。

〈エンジンオイル量は、30 頁《仕様》参照〉

④エンジンオイル注油後、オイルがにじみ出ないよう、注油栓はしっかりと締め付けておいて下さい。

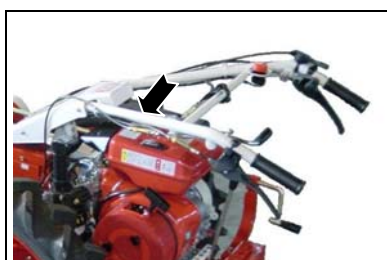
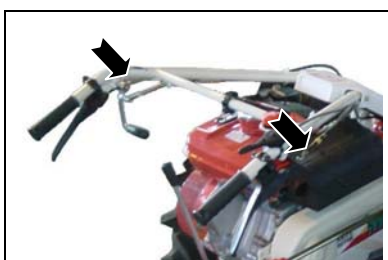
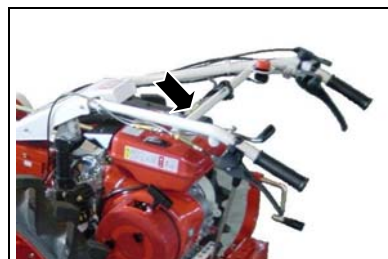
## 各部への注油のしかた

●約 30 時間毎にグリス又はエンジンオイル(＃30)を操作しながら行って下さい。
注油を怠ると、油切れにより操作が重くなり、破損する恐れもあります。

走行クラッチワイヤ

ナイフクラッチワイヤ

ハンドル上下ワイヤ

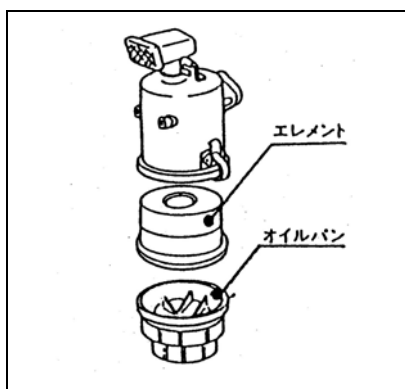
サイドクラッチワイヤ

ブレーキワイヤ

《各部の点検・整備・調整のしかた》

## エアクリーナの清掃のしかた

### ⚠ 警告

●エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に清掃して下さい。

…エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。ゴミやほこりを吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。…

① クランプを外し、オイルパンを外して下さい。

② オイルパン内の泥、草屑等を灯油できれいに洗浄し、新しいエンジンオイル(SAE10W-30 相当)をレベル線まで入れて下さい。

③ フォームエレメントは、中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。その後、新しいエンジンオイル(SAE10W-30 相当)に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。

④ ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元のとおりに組み付けて下さい。

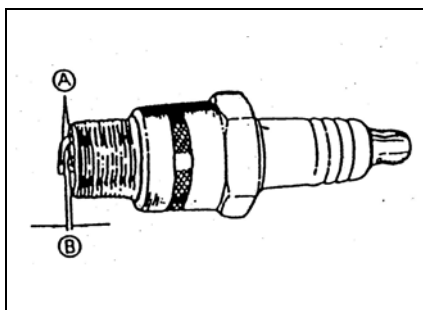
### ⚠ 注意

・洗浄時、フォームエレメントを強く引っ張ったりもんだりしないで下さい。エレメントが破れます。

…エアクリーナの清掃、交換時期について…

| | 清掃 | 交換 |
|---|---|---|
| フオームエレメント … | 25 時間毎 | 300 時間毎 |

●チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

## 点火プラグの点検・調整のしかた

①プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Ａにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。

②中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。

③点火プラグの電極隙間Ｂを 0.7～0.8mm に調整して下さい。

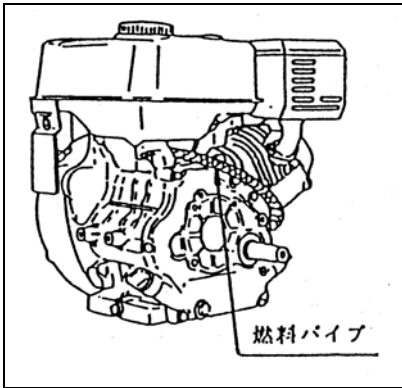
参考；

締め付け時は、始め手でねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。

始めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

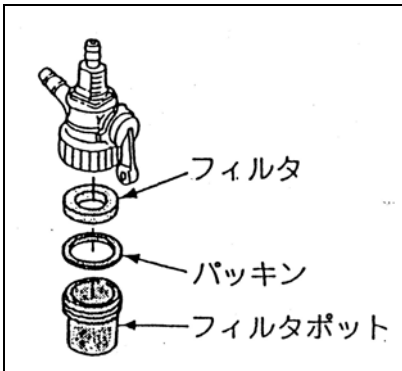
＜点火プラグ基準…30 頁《仕様》参照＞

## 燃料パイプの点検のしかた

### ⚠ 危険

- **くわえたばこや裸火照明での作業禁止**
- 燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に３年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- パイプ類や締付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。
- 交換時、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

## 燃料コックの清掃のしかた

- ５０時間使用ごとに燃料コック内部を清掃して下さい。
- 作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
- 作業は燃料コックを「閉**(OFF)**」にしてから行って下さい。

### ⚠ 危険

- **くわえたばこや裸火照明での作業禁止**
- **ガソリンやシンナー等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。**

①燃料フィルタポットを外し、ポット内部及びフィルタを灯油で洗い、エアを使って乾燥させて下さい。
②元のとおりに組み付けて下さい。

## タイヤ空気圧の調整のしかた

- タイヤ空気圧のチェックを下表に従って行って下さい。
- 左右のタイヤの空気圧が均等になっていないと、作業中ハンドルを取られる恐れがあります。

| | タイヤサイズ | 空気圧kg/ｃ㎡ |
|---|---|---|
| タイヤ | 4.00-12 | 1.2 |

## そのほかの点検

- ベルト、ワイヤは初期伸びがありますので、新品から 2～3 時間運転後調整し直して下さい。
- 本機を動かしながら、異常音、異常熱発生の有無を確認して下さい。
- 各部を十分になじませるため、最初の 2～3 時間は無理な作業はさけて下さい。
- 作業後の手入れ及び定期的な点検も忘れずに実施して下さい。

## 各部ワイヤ・ベルト調整のしかた

### ⚠ 注意

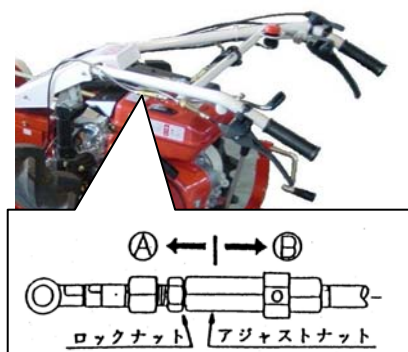
各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置き、調整はエンジンを停止して行って下さい。

### ■走行クラッチワイヤ調整

図１を参考に走行クラッチワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□走行クラッチを入れても負荷がかかるとベルトがスリップして本機が停止する場合。

…アジャストナットをＢの方向へ…

□走行クラッチレバーを切ってもベルトが付回りして本機が停止しにくい場合。

…アジャストナットをＡの方向へ…

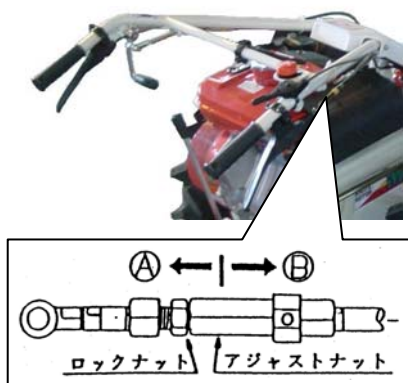
図 1

### ■ナイフクラッチワイヤ調整

図 2 を参考にナイフクラッチワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□ナイフクラッチレバーを入れても負荷がかかるとナイフの回転が停止する場合

…アジャストナットをＢの方向へ…

□ナイフクラッチレバーを切ってもナイフの回転が停止しない場合。

…アジャストナットをＡの方向へ…

図 2

### ⚠ 注意

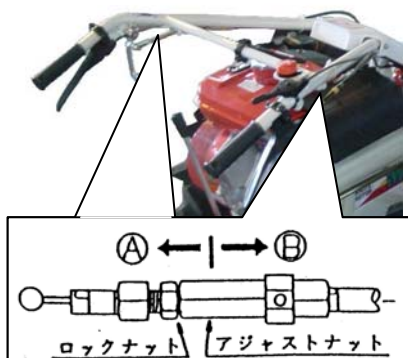
ナイフクラッチレバーにはナイフブレーキが連動されています。ナイフクラッチワイヤの調整後は、ナイフブレーキの利きも確認して下さい。ナイフクラッチを切ってナイフの回転が 3 秒程度で停止すれば良好です。

### ■サイドクラッチワイヤ調整

図 3 を参考にサイドクラッチワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□サイドクラッチレバーを戻しても、駆動がつながらない場合

…アジャストナットをＡの方向へ…

□サイドクラッチレバーを握っても駆動が切れない場合

…アジャストナットをＢの方向へ…

図 3

■ハンドル上下ワイヤ調整

図 4

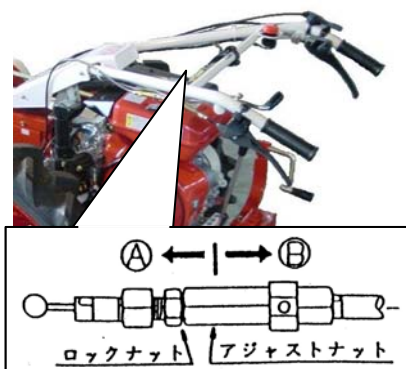



図 4 を参考にハンドル上下ワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□レバーを操作してもハンドルが上下できない場合

…アジャストナットをＢの方向へ…

□レバーの操作をしなくても負荷がかかるとハンドルが上下する場合

…アジャストナットをＡの方向へ…

■ 駐車ブレーキワイヤ調整

## ⚠ 注意

駐車ブレーキの調整を怠ると、走行時に駐車ブレーキを引きずったり、傾斜地に駐車した場合に動き出したりして危険です。

図 5

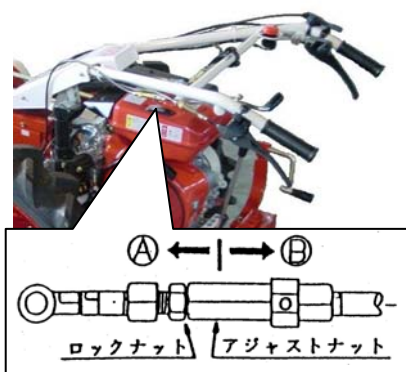
図 5 を参考に、異常を感じたらすぐに駐車ブレーキワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□走行クラッチレバーを切っても駐車ブレーキが利かない場合

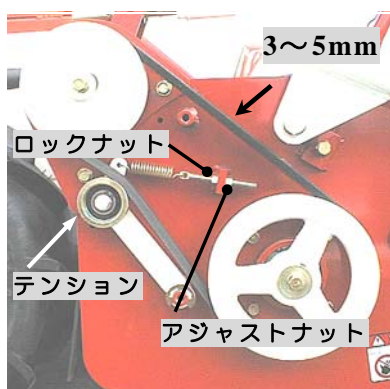
…アジャストナットをＢの方向へ…

□走行中も駐車ブレーキが利いている。(駐車ブレーキの解除ができない。)

…アジャストナットをＡの方向へ…

参考 ；

- 走行クラッチレバー、ナイフクラッチレバーにはいずれも「切」位置で 3～5mm の遊びを持たせておいて下さい。
- 調整後はロックナットでアジャストナットを固定して下さい。

■ナイフベルト調整

図 6

ナイフベルトはテンションにより常に張られた状態にあります。負荷がかかるとベルトがスリップする場合、又ナイフベルトを交換した場合には、図 6 に従ってベルトの張りを調整して下さい。

□ベルト中央部を指で押して、3～5mm 程度になるまでアジャストナットを締め込んでいきます。

調整後は、ロックナットで固定して下さい。

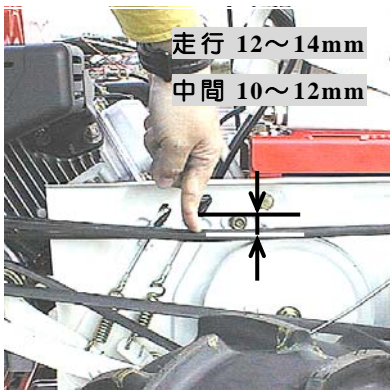



図 7

## ■走行・中間ベルト押さえ調整

ベルトの交換を行った場合には、図 7,8 を参考にベルトの張り、ベルト押さえの調整をして下さい。

走行・ナイフクラッチレバー共に「入」位置で調整します。

□ベルトの張り調整

ベルトの中央部を指で(テンションプーリが動き出す程度)押した時に、走行ベルトで 12～14mm,中間ベルトで 10～12mm 程度たわむ程度にエンジン位置の前後、ワイヤのアジャストナットの調整で行います。

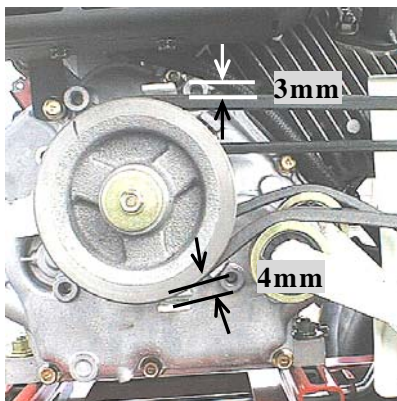



図 8

□ベルト押さえ調整

ベルト押さえの位置の調整は、中間ベルトで行います。

ベルトが張られた状態で、ベルト押さえとの間隔が上側で 3mm 程度、下側で 4mm 程度となるよう調整して下さい。

## ⚠ 注意

- 調整のために取り外したかバー類は必ず元のとおりに取り付けて下さい。
- 調整後は、それぞれのクラッチレバーの「入」・「切」の動作確認を必ずおこなって下さい。
- ベルトは、初期のびが多少ありますので、新品より 2~3 時間運転後、再度調整して下さい。
- ベルトは消耗品です。異常があれば新品と交換して下さい。初回 20 時間目、以降 100 時間毎に調整します。＜ベルトサイズは 30 頁《仕様》参照＞

## 寒冷地での注意

- 冬季は、使用後必ず本機に付着した泥や異物を取り除いて、コンクリートか固い乾燥した路面上に駐車して下さい。付着物が凍結して故障の原因となります。
- 又、凍結して運転不可能となった場合は、無理に動かそうとせずに、凍結箇所をお湯で溶かすか、凍結が溶けるまで待って下さい。
  (無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特に注意して下さい。)

《ナイフの点検・交換・修正のしかた》

## ナイフの点検・交換・修正

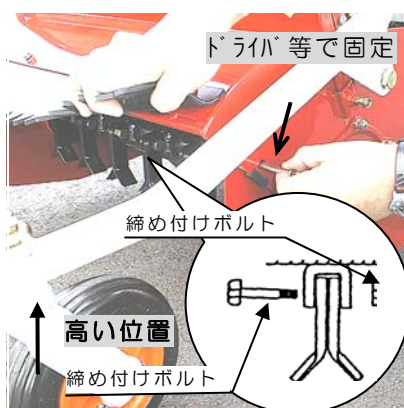
■作業を安全に行うため、ナイフの作業前点検をおこなって下さい。■

### ⚠ 警告

- 前回の作業時に縁石や木の根等にナイフが当たり、ナイフの曲がりや欠損が生じていないか、又、ナイフが摩耗していないか作業を始める前に点検して下さい。
  ナイフの摩耗、割れ、曲がり、欠損等を放置したまま作業を続けると、作業中にナイフが折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たったりして重大な人身事故を招く原因となったり、振動によりエンジンからの出火原因となる場合があります。
- ナイフは高速で回転します。一本でもナイフが欠けたり、折損したりするとそれだけで振動の原因となります。振動したまま作業を続けると危険なばかりでなく、振動により本機各部にヒビや割れ発生の原因となり、本機寿命を著しく縮めます。
- ケガを避けるため、点検・交換は丈夫な手袋をつけるか、又は布切れでナイフの先端を包んで行って下さい。

### ⚠ 注意

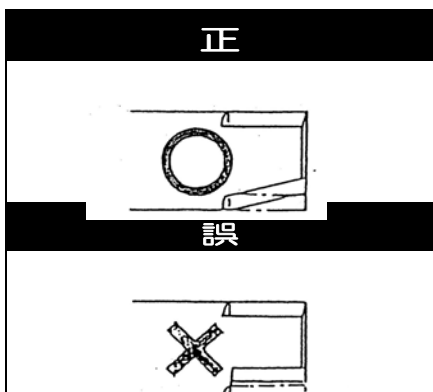
- ナイフの交換・修正等の作業は適切な工具と整備技術をおもちの方が実施して下さい。
- ナイフ締め付けボルト、ナットも摩耗します。ナイフの交換時には必ずナイフ締め付けボルト、ナットも同時に交換するようにし、決して他のボルト、ナットで代用しないで下さい。
- 作業をする時は手を滑らさないように十分注意して下さい。
- ナイフの交換は欠損による 1～2 枚を除き、全数を同時に行うようにして下さい。新旧のナイフを混同して使用すると異常振動の発生につながります。

## ■ナイフの点検・交換のしかた

①エンジンを停止し、念のため点火プラグのキャップを外して下さい。〈12 頁…エンジン停止のしかた参照〉
②刈高調整ハンドルで刈高さを一番高い位置にして下さい。
③フロントガードを開け、落ちてこないようにドライバ等を使用して固定して下さい。
④ナイフ及びナイフの取付状態を点検して下さい。
⑤ナイフの割れ、曲り、摩耗を点検して下さい。
　下図の様に異常な状態になっていたらナイフの裏表を入れ替えて使用するか交換して下さい。

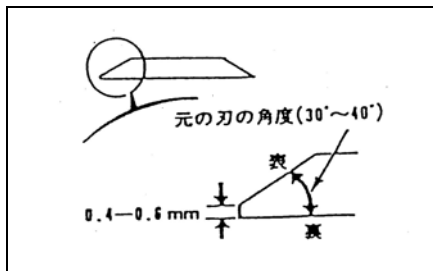
参考；

・乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早いため頻繁に点検して下さい。
・予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元におかれておくことをお奨めいたします。
・ナイフドラムの振れも振動の原因となります。ナイフドラムの修正はできませんのでナイフドラム ASY での交換となります。
・ナイフは両刃となっていますので、使用側のナイフが摩耗したら裏刃と交換できますが、この場合には全数をおこなって下さい。

## ■ナイフの修正のしかた

…ナイフの修正を行うと、ナイフの初期の性能が損なわれますのでご承知おき下さい。…

①以下の要領でナイフを研摩して下さい。
・ナイフを研摩するときは、ナイフをしっかりと保持して下さい。
・ナイフを元の刃と平行に研摩すると、破損の原因となります。左図のように研磨して下さい。
・ナイフのバランスを崩さないように使用する両側の刃を同量研摩して下さい。

②刃先には 0.4〜0.6 ㎜程度の平らな部分を残しておいて下さい。剃刀の刃のように刃先をとがらせると、すぐに摩耗し切れ味が鈍ります。

参考；

グラインダで研摩する際には、水をかけながらナイフの温度を上げないようにして少しずつ研摩して下さい。
ナイフの温度が上がりすぎると熱処理が戻り、摩耗が速くなります。

## ⚠ 注意

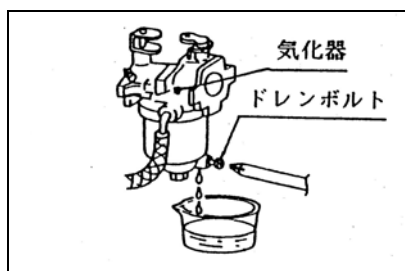
・グラインダを使用する際には必ず帽子、厚手の手袋、防護メガネ等をつけて安全に注意して行って下さい。 **ナイフの修正は必ず全数同時に行って下さい。〈部分的な修正は禁止！〉**

《長期保管のしかた》

## ⚠ 危険

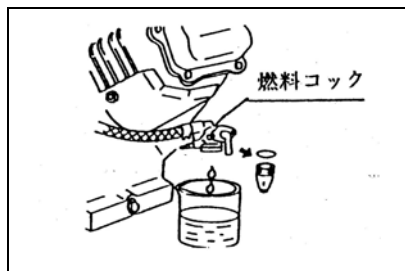
- 本機を保管する場合には、堅い平坦な場所で本機を水平にして下さい。
- 燃料を抜く時は火気厳禁。
- 風通しの良い場所で行って下さい。
- 燃料タンク内のガソリンを抜く時は、エンジンとマフラが冷えてから行って下さい。
- 抜いた燃料の取扱いは十分に注意して下さい。

## ⚠ 危険

くわえタバコや裸火照明での作業禁止

①本機を 30 日以上使用しないときには、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないようドレンボルトを緩め、気化器内燃料を排出すると共に、燃料コックより燃料タンク内の燃料を抜き、湿気のない場所を選んで保管して下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で拭いて下さい。

③エンジンオイルを交換して下さい。

〈21 頁…エンジンオイル交換参照〉

④各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスタータ、エアクリーナ、マフラ、気化器付近やベルトカバー内に堆積した草やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

…草やホコリが堆積したまま作業を続けると…
草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し､焼き付や､火災の原因にもなりかねません。

参考：

ナイフカバー内の草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的簡単に洗い落とすことができます。

…このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアクリーナ、マフラ排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

⑤各給脂・注油箇所にそれぞれグリースアップ、注油をしておいて下さい。

⑥駐車ブレーキを掛けて、屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑦本機にカバー等をかけてほこりがつかないようにして下さい。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れて下さい。

《仕　様》(参考数値)

| 名　称 | | ハンマーナイフローター |
|---|---|---|
| 型　式 | | ＨＲＧ６６１ |
| 全長×全幅×全高(㎜) | | ２,２００×９２０×１,０００ |
| 刈　幅(㎜) | | ６５０ |
| 重　量(kg) | | １８２ |
| 刈　高(㎜) | | ２０～１７０ |
| ナイフ(枚) | | フリーナイフ・・・・３８枚 |
| ベルト(本) | 走行 | ＬＡ４６×１ |
| | 中間 | ＬＢ６９（ＳＧ１０００）×１ |
| | ナイフ | ＬＢ３９×１ |
| タイヤサイズ(本) | | タイヤ ４．００－１２ × ２ |
| ハンドル | | 上下（４段）可変 |
| ブレーキ | | 駐車、ナイフブレーキ装備 |
| 速　度(km/m) | 前　進 | ①０.７９，②１.６５，③２.９２(移動用) |
| | 後　進 | ①０.７９ |
| エンジン | 名　称 | ﾒｲｷ |
| | 型　式 | GM301-PN-300 |
| | 排気量(cc) | ２９６ |
| | 潤滑油量(ﾘｯﾄﾙ) | １.０ |
| | 最大出力 | 10.0/4.000 |
| | 始動方式 | リコイルスタータ |
| | 点火プラグ | BP5ES |
| | タンク容量(ﾘｯﾄﾙ) | 6.0 |

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

《工具袋・同梱品明細》

| No. | 部　品　名 | 規格・寸法 | 個数 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 取扱説明書 | | 1 | |
| 2. | 品質保証書 | | 1 | |
| 3. | エンジン工具 | エンジン付属 | 1 | |
| 4. | 両口スパナ | 10×12 | 1 | |
| 5. | 〃 | 14×17 | 1 | |
| 6. | ゴーグル | 防曇タイプ | 1 | 保護具 |
| | | | | |

《消耗品明細》

| No. | 部　品　名 | 部品番号 | 個数/台 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1. | フリーナイフ | 80-1610-821-00 | 38 | |
| 2. | 取付ボルト set | 83-1610-835-00 | 19 | |
| 3. | 走行ベルト | 89-6122-004601 | 1 | LA46 |
| 4. | 中間ベルト | 89-6123-006903 | 1 | LB69（SG1000） |
| 5. | ナイフベルト | 89-6123-003901 | 1 | LB39 |
| 6. | スロットルワイヤ | 0226-70300 | 1 | |
| 7. | 走行・ナイフワイヤ | 83-1614-932-00 | 各 1 | |
| 8. | ブレーキワイヤ | 0251-72200 | 1 | |
| 9. | サイドクラッチワイヤ | 0253-70100 | 2 | |
| 10. | ハンドル上下ワイヤ | 0251-72100 | 1 | |
| 11. | 駐車ブレーキシューセット | 85-1711-318-00 | 1 | |
| 12. | ナイフブレーキ | 80-1417-371-00 | 1 | |
| 13. | 警告ラベル | 0253-72500 | 1 | |
| 14. | 危険マーク | 83-1603-917-00 | 1 | |
| 15. | ナイフ警告マーク | 83-1484-921-00 | 4 | 手足危険… |
| 16. | 注意マーク | 83-1516-908-00 | 1 | このカバーなし… |
| 17. | 〃 | 83-1516-915-00 | 1 | 安全のため… |
| 18. | 〃 | 83-1516-922-00 | 1 | 刈取部周辺は… |
| | | | | |
| | | | | |

## 《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は１年に１回、月例点検は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

| 項目 | | 点検内容 | | 点検実施時期 始業 | 月例 | 年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 原動機 | 本体 | ①かかり具合、異音 | 始動の際、容易に起動するか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②回転数と加速の状態 | 回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ③排気の状態及びガス漏れ | 排気色、排気臭及び排気音は正常か。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ④エアークリーナーの損傷、緩み、汚れ | 損傷なく、取付け部に緩み、著しい汚れはないか。 | | ○ | ○ |
| | | ⑤シリンダーヘッドと各マニホールド締付け部の緩み ＊ | ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。（正常締付けトルクで緩みはないか。） | | | ○ |
| | ＊ | ⑥弁すきま | （正規のすき間であるか。） | | | ○ |
| | ＊ | ⑦圧縮圧力 | （正規の圧縮圧力であるか。） | | | ○ |
| | | ⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み | エンジンベースに亀裂、変形はないか。ボルト・ナットに緩みはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | 潤滑装置 | ①油量、汚れ | オイルの量は適切か。オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか | ○ | ○ | ○ |
| | | ②油漏れ | オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | 燃料装置 | ①燃料漏れ | 燃料の漏れはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②燃料フィルターの詰まり | 著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。 | | ○ | ○ |
| | 電気装置 | ①電気配線の接続部の緩み、損傷 | ハーネス接続は適切か、又緩み、損傷はないか。 | | ○ | ○ |
| 伝達装置等 | Ｖベルト | ①緩み | ベルトの張り具合は適切か。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②損傷、汚れ | 亀裂、損傷、著しい汚れはないか。 | | ○ | ○ |
| | ミッション | ①異音、異常発熱及び作動 | 作動に異常はないか、又異音、異常発熱はないか。 | | ○ | ○ |
| | | ②油量、汚れ | オイルの量は適切か、又著しい汚れはないか。 | | | ○ |
| | | ③油漏れ | オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| 車体 | 車体 | ①亀裂、変形及び取付けボルト・ナットの緩み、脱落 | フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。 | | ○ | ○ |
| | カバー | ②亀裂、変形、腐食 | 亀裂、変形、腐食はないか。 | | | ○ |
| | レバー及びワイヤー | ①レバー及びワイヤー類の損傷、緩み、ガタ、割ピンの欠損 | 作動及び取付け状態。著しい損傷及び緩み、ガタ、脱落はないか | ○ | ○ | ○ |
| 走行装置等 | タイヤ（ホイール） | ①空気圧及び溝の深さ | 基準値内であること。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②亀裂、損傷及び偏摩耗 | 亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ③金属片、石その他の異物の噛み込み | 異物の噛み込みはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ④ボルト・ナットの緩み、脱落 | ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ⑤ガタ、異音 | 取付け部に異音、ガタはないか。 | | ○ | ○ |
| | 表示マーク | ①損傷 | 注意・危険・指示銘板が損傷なく取り付けられているか。 | | ○ | ○ |

※　＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

## 《刈り取り性能診断》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい。

| 現　象 | 原　因 | 処　置 |
|---|---|---|
| 刈草がうまく放出されない。 | 草がしめっている。 | 草が乾燥してから作業する。 |
| | 草が長い。 | 刈高さを高くして、二度刈りをする。 |
| | 刈高さが低い。 | 刈高さを高くする。 |
| | エンジン回転数が低い。 | 最高回転数にする。 |
| | 作業速度が速い。 | 作業速度を落とす。 |
| | ナイフカバー内面への草屑の堆積。 | ナイフカバー内を清掃する。 |
| 刈残しが出る。 | 作業速度が速い。 | 作業速度を落とす。 |
| | エンジン回転数が低い。 | 最高回転数にする。（エンジン回転をチェックする。） |
| | 草が長い。 | 二度刈りをする。 |
| | ナイフの磨耗、破損、欠損 | 新しいナイフと交換する。 |
| | ナイフカバー内面への草の堆積。 | ナイフカバー内面をきれいに清掃する。 |
| 土削りを発生する。 | 刈高さが低い。 | 刈高さを高くする。 |
| | 旋回速度が速い。 | 旋回時の速度を落とす。 |
| | 地形にうねりがある。 | 草刈作業のパターン（刈取方向等）を変える。 |
| | 地形に起伏（凸凹）が多い。 | 刈高を高くする。 |
| ベルトがスリップする。 | ベルト張力が低い。 | ベルトの張力を調整する。 |
| | ナイフカバー内に草が詰まっている。 | 詰まった草を取り外し、ナイフカバー内をきいにする。 |
| | ベルトの磨耗。 | 新しいベルトと交換する。 |
| 振動が大きい。 | ナイフカバー内に草が堆積している。 | ナイフカバーをきれいに清掃する。 |
| | ベルトの破損。 | 新しいベルトに交換する。 |
| | ナイフの破損、欠損。 | 新しいナイフに交換する。 |
| | ナイフドラムが曲がっている。 | 新しいナイフドラムASSYと交換する。 |
| 刈取作業負荷が大きい。 | エンジン回転が低い。 | エンジン回転数を最高にする。（エンジン回転数をチェックする。） |
| | ナイフが摩耗している。 | ナイフを裏返すか、交換する。 |
| | 作業速度が速い。 | 作業速度を落とす。 |
| | ナイフドラムの回りに草が堆積あるいは巻付いている。 | ナイフドラムをきれいに清掃する。 |
| | 草が長い。 | 刈高さを高くして、二度刈りをする。 |
| | 刈高さが低い。 | 刈高さを高くする。 |
| 等高線刈りで本機が谷側へ流れる。 | 圃場が軟弱。 | 圃場が乾くまで作業を待つ。 |
| | 等高線刈りをしている。 | 上下刈りをする。 |
| | 前輪が自在になっている。 | |
| 刈取部から草屑等異物の飛散が多い。 | フロントガードを固定している。 | フロントガードをフリーにする。 |
| | フラッパーの破損。 | フラッパーを交換する。 |
| | 「後進」位置で作業をしている。 | 必ず「前進」位置で作業をする。 |

※分からない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。

## 《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し適切な処理をして下さい。

| 現　象 | 原　因 | 処　理 |
|---|---|---|
| 始動困難な場合。 | アクセルレバーが「始動」の位置でない。 | アクセルレバーを必ず「始動」の位置にする。 |
| | チョークレバーを引いていない。 | エンジンが冷えている時、チョークレバーを引いて始動する。 |
| | 燃料が流れない。 | 燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を取り除く。<br>燃料コックのストレーナーカップを取り外し、カップ内の沈殿物を除去すると共にフィルターに付着しているゴミを取り除く。 |
| | 燃料送油系統に、空気や水が混入している。 | パルブ及び締め付けバンドを点検し、損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 |
| | 寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。 | 気温によってオイルの使い分けをする。 |
| | 点火コイル、又はユニットの不良。 | 点火コイル、又はユニットを交換する。 |
| | 点火プラグの不調。 | 点火プラグの電極のスキマを点検し調整する。<br>新しい点火プラグと交換する。 |
| 出力不足の場合。 | 燃料不足。 | 燃料を補給する。 |
| | エア　クリーナ　の目詰まり。 | エレメントを清掃する。 |
| | シリンダ　・ピストンリングの摩耗。 | リングを交換する。 |
| 突然停止した場合。 | 燃料不足。 | 燃料を補給する。 |
| | 燃料コックが開いていない。 | 燃料コックを開く。 |
| 排気色が異常に黒い場合。 | 燃料の質が悪い。 | 良質の燃料と交換する。 |
| | エンジンオイルの入れ過ぎ。 | 正規のオイル量にする。 |
| マフラーから黒煙が出て出力が低下した場合。 | エア　クリーナ　エレメントの目詰まり。 | エレメントを清掃する。 |
| | チョークが完全に開いていない。 | チョークレバーを完全に戻す。 |
| マフラーから青白煙が出た場合。 | エンジンオイルの入れ過ぎ。 | 正規のオイル量にする。 |
| | シリンダ　・ピストンリングの摩耗。 | リングを交換する。 |
| 暗闇でマフラーが赤熱する。 | エア　クリーナ　エレメントの目詰まり。 | エレメントを清掃する。 |
| | リコイルカバー内への草屑の詰まり。 | リコイルカバー内を清掃する。 |

※わからない場合は、お買い上げ頂きました販売店にご相談下さい。